

新庄城二の丸跡

遺跡番号 205-129
調査回数 第1次
所在地 山形県新庄市堀端町4番地
北緯・東経 38度 76分 71秒・140度 29分 59秒
調査委託者 新庄市
起因事業 新庄市公立保育所整備
調査面積 1,800㎡
受託期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日
現地調査 令和5年5月15日～11月14日
調査担当者 菅原哲文（現場責任者）・齊藤主税
調査協力 新庄ふるさと歴史センター
遺跡種別 城館跡
時代 近世
遺構 建物跡・土坑・溝跡・焼土遺構・柱穴・ピット・落ち込み遺構
遺物 陶磁器・瓦・金属製品・石製品（文化財認定箱数：390箱）

調査の概要

新庄城は新庄盆地の中央に位置し、^{さすのがわ}首指野川と中の川・戸前川の間の扇状地に立地する。元和8年（1622年）に新庄藩の初代藩主となった戸沢政盛により築城され、寛永2年（1625年）に城が完成したと伝えられる。現在、本丸部分を中心に最上公園となっている。

調査は新庄城二の丸跡内の保育所建設予定地になる1,800㎡について実施した。調査区は、北側から1、2、3区を設定した（図2）。遺構面は3面確認された。第1面は廃城後の明治以降に整地された近現代の遺構面である。下の第2面は戊辰戦争時に火災に遭った幕末の遺構面、さらに下の第3面は築城後に二の丸が整備されていった面で、米蔵が設けられる以前の時期と考えられる。

遺構と遺物

第1面では、ここに建てられていた新庄北高校の校舎のコンクリート基礎や根石が検出された。近現代の瓦や学校に関連する物、下面の江戸時代の遺物も出土した。

第2面の遺構として、焼土遺構、溝跡、礎石、柱穴、土坑、瓦廃棄遺構などが検出された（写真1・2・4～7・図3）。焼土遺構は戊辰戦争の火災に由来するもので、覆土に炭化材や炭化米を含む。SX84焼土遺構は強く焼けた面が広がっていた（写真1）。1区では江戸時



図1 遺跡位置図（S = 1:50,000）

代の建物跡の礎石や柱穴が検出された（写真2）。大型の礎石は4ヶ所確認された。直径が50cmを超え、やや扁平な自然石や方形の割石を用いている（写真5）。いずれも外面に焼けた痕跡が残る。礎石は、掘り方を掘り土を入れ整地した上に据えられていた。長軸約50cmの礎石が間隔約1mで並ぶ礎石群も確認された（写真4）。周囲に焼面が広がり、建物に由来する炭化材が散在する。またSX75（写真6）などの瓦が大量に出土する廃棄場が3ヶ所確認された（図3青色部分）。

第3面で確認された遺構であるが、3区東側には南

北に延びる溝状の遺構や、土坑、柱穴などが検出された（写真9）。また、その西側にはSX100、SX217 落ち込み遺構が確認され（写真3）、整地し埋め立てられた事が判明した。調査区西側にも、北側のSX260、南側のSX120 整地層を検出し、トレンチを入れ深さを確認した所、瓦が密に入り固く整地された状況が確認され、深い所では約80～90cmに達した。築城当初は湿地的な地形であった場所を、大量の瓦と土砂を入れて整地した事が明らかとなった（写真8）。

遺物であるが、中世の遺物も僅かながら出土した。鎌倉時代と考えられる中国産の青磁碗、室町時代末から安土桃山時代にかけての須恵器系陶器甕、瀬戸・美濃産の天目茶碗、灰釉小皿、中国産の青花などがある。江戸時代の陶磁器は、肥前産がほとんどを占める。唐津焼は、小皿、碗、播鉢、鉢、大皿などが出土している。写真10は、第3面と整地層中から出土した磁器で、波佐見焼の染付皿、青磁瓶、伊万里焼の青磁皿、染付鉢などがある。17世紀後半を中心とする年代で、武家屋敷などから出土するランクが高い物である。

最も多く出土した遺物は江戸時代の瓦で、平瓦と丸瓦が中心である。写真11は、軒丸瓦である。新庄藩主戸沢家の家紋、「丸に九曜」文が入る。その他、鬼瓦や鯨瓦も出土した。鯨瓦は緻密な鱗状の文様を施した体部やヒレの一部と思われる部分がある。隅檜や主要な門に葺かれたと考えられ、不要となった瓦はこの場所にまとめて廃棄された事が判明した。その他、かわらけ、焼塩壺や、金属製品として釘、鉄砲の鉛玉、貨幣（一分金・寛永通宝）などが、石製品として砥石や硯が出土している。



写真1 3区SX84 焼土遺構の調査（南より）

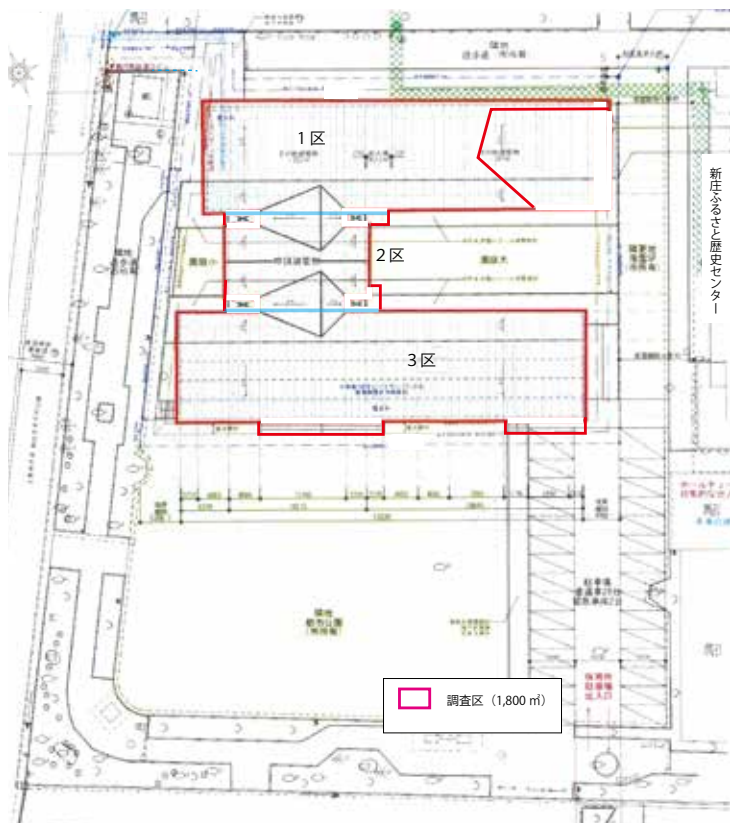


図2 調査概要図 (S = 1:1,000)

まとめ

新庄城二の丸跡の発掘調査では3面の遺構面が確認され、第2面では幕末の戊辰戦争で火災に遭い焼失した遺構面が確認され、米蔵に該当すると思われる礎石も検出された。その下の第3面は、築城後に二の丸内が屋敷地として使われていたが、その後17世紀後半以降に大規模に整地され埋め立てられた様相が明らかになった。また江戸時代を中心とする多くの遺物が出土し、新庄城下での当時の生活や流通の様子を明らかにする事ができる豊富な資料が得られた。



写真2 1区第2面の遺構検出状況（北より）



図3 第2面の遺構平面図



写真3 第3面調査区全景(北より)



写真4 1区礎石群検出状況（北東より）



写真5 1区礎石（EP204）検出状況（南より）



写真6 3区SX75瓦廃棄遺構（東より）



写真7 3区SX75瓦出土状況



写真8 1区4トレンチの整地層断面（東から）



写真9 3区東側の遺構（東から）



写真10 江戸時代の伊万里焼・波佐見焼（第3面出土）



写真11 軒丸瓦